

えんがわ

第60号

2012年3月発行

発行元
衣笠病院グループ
横須賀市小矢部
2-23-1
TEL046-852-1182

未知への遭遇

五十二年間、小児科をやっていた私にとって「ろうけん」は未知への遭遇である。子どもと高齢者で類似している所もあれば、そうでない所もある。もの忘れや認知症がある高齢者に対しては言葉よりやさしい態度、笑顔、ふれあいが必要に立つ。このことは理解力が十分でない子どもと似ている。心が通じると何とも言えない笑顔が返り癒される。どちらも自分にとって敵か、味方かを本能的に区別する。異なるのは白衣の効用である。高齢者に対し医師としての業務を行う時は必ず白衣を着るようになっている。高齢者にとって白



衣が医師である判断に役立つ。白衣を着ていないと顔を見て

「どなたさま」の返事が返ってくる。毎日、未知への遭遇を楽しみにしている。心掛けているのはチームワークと協働である。自分の業務を行う時は他の職種と協働してやらないと効果が挙がらない。判らなければ相談してから行う。人生の最後をろうけんに来て本当に良かったと思っている。加齢により身体的には衰えても未知への好奇心により高齢者の理解がさらに深まることを願っている。

衣笠ろうけん施設長
医師 前川喜平

えんがわ在宅 在宅酸素療法

在宅酸素療法は、慢性呼吸不全の患者様が酸素濃縮装置や液化酸素及び酸素ボンベを用いて、自宅で高濃度の酸素吸入をする治療法です。在宅酸素療法は正しく使用すれば安全な装置ですが、酸素は燃焼を助ける性質が強いガスですので、火気の取扱いについての細心の注意が必要です。しかしながら、在宅酸素療法を受けている患者様が、喫煙などが原因と考えられる火災により



火気

死亡するなどの事故が発生しており、平成二十二年にも全国

で五例の火災による死亡事故が報告されています。

在宅酸素療法中の注意点としては、装置の周囲二メートル以内には火気を置かないで下さい。酸素吸入中に、煙草等の火気を近づけるとチューブや衣服等に引火して、火傷や火災の原因となります。

在宅酸素療法は、火気の取扱いに注意して正しく使用すれば、酸素が原因でチューブや衣服等が燃えたり、火災になることはありません。過度に恐れることなく、医師の指示どおりに酸素を吸入して下さい。

衣笠病院 臨床工学室
臨床工学技士 庭野俊

今年インフルエンザが大流行しています。予防の基本は水やアルコールによる手洗いです。家に帰った時などは手洗いをしましょう。